

一部で回復基調が見られるも、収益圧迫で先行きを懸念

9月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一部では需要や客足の増加が見られるなど回復基調にあるものの、販売価格の低迷や原材料価格の上昇等による収益圧迫で、苦戦を強いられる場面も目立っている。また、人手不足や企業間格差の拡大等の不安材料が引き続き懸念されるなど、依然として先行きを不安視している。

製造業	食料品		菓子は敬老の日のギフトやお彼岸で需要が高まるも、全体としては横ばい状態で推移している。製麺は売上並びに収益が減少傾向にある中で、10月からの輸入小麦の価格上昇で景況感が悪化している。食肉は依然として高値相場が続いており、部分肉のカット頭数も堅調に推移している。
	繊維・同製品		桐生織物は婦人服地及び輸出向けが、来シーズンに向けたサンプル作成の時期を迎えている。伊勢崎織物は伊勢崎銘仙の引き合いがある反面、人手不足が要因となり対応に苦慮している。ニットは気温低下などで店頭における売上が増加傾向にあり、一部では追加注文により受注が上向いている。
	窯業・土石製品		生コンは前橋・高崎市などの県央地域における需要が減少するも、東毛地域の堅調な民需で出荷量が増加している。コンクリート製品は公共工事で需要が回復傾向にある一方で、販売価格の低迷や今後の原材料価格の上昇による収益圧迫を懸念している。砕石は地域間格差が見られるも、全体としては横ばい状態にある。
	機械・金属		SUBARU関連等の自動車関係をはじめ、食品や建設機械関係が比較的好調に推移している一方で、海外への生産シフトや人手不足に伴う人件費負担の増加といった懸念事項も散見される。鍍金は自動車関連や電子部品関連が緩やかな回復基調にあり、一部ではリーマンショック前の水準に達する企業も見受けられる。
	その他の製造業		木材は荷動きは比較的良好も、人手不足により生産量が減少傾向にある。紙加工品は原紙の値上げに伴う価格交渉が進み、一部で大幅な価格改定が行われる一方で、古紙価格の下落で交渉が停滞気味となる場面も散見される。印刷は受注状況や稼働率が底止まりで落ち着きつつあるも、企業間格差は拡大傾向にある。
非製造業	卸売業		タイヤ卸は原材料価格の高騰による販売価格の上昇で販売数量が落ち込み、売上並びに収益が悪化傾向となり、苦戦を強いられている。農産物卸は前年のような台風被害もなく、ニンジンやジャガイモ等の根菜類の相場が安定的に推移している。水産物卸は不漁によるサンマの価格上昇で需要が伸び悩み、売上減少となる。
	小売業		家電小売は販売価格の低下傾向が続くも、高付加価値商品の販売強化で売上は横ばいを維持。燃料小売は原油価格の値上がりや円安傾向で燃料価格が上昇している。生花小売は専門店が比較的好調となる反面、スーパー等での委託販売は収益が悪化するなど明暗が分かれる。商店街は一部地域を除いて人出が少ない状況。
	サービス業		温泉旅館は台風の影響があるも、連休やイベント等で入込数は増加傾向となる。不動産取引は高崎市域において、高崎駅周辺の再開発で土地価格が上昇傾向で、投資用物件の問い合わせが増加する反面、事業用物件は引き合いが少ない状況。建築設計は新築住宅の需要が低迷する中、敷地の仲介まで手掛ける設計者が散見。
	建設業		解体工事は公共事業における改修工事や空家解体工事が増加傾向にある。電気工事は仕事量が増加傾向にあるも、現場作業員が不足している。塗装工事は一部で収益改善が見られるも、今後の企業間格差の拡大を危惧している。鉄構は発注者からの短納期要請への対応力について、企業規模によるバラツキが見られる。
	運輸業		仮決算に伴う荷量の増加が期待を下回る一方で、野菜関係の輸送量は安定的な収穫により、比較的良好に推移している。また、アメリカにある製油所への大型ハリケーン直撃の影響等で燃料価格が上昇傾向にある。小型運送は医薬品や東毛地域における自動車部品等の輸送が好調となり、売上・件数ともに増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 112.6(前月比+4.7%)「県統計課・8月」
- 住宅着工戸数 1,115戸(前年同月比▲4.7%)「県建築住宅課・8月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.21倍:有効1.59倍「群馬労働局・8月」
- 大型小売店販売額 198億円(前年同月比+0.7%)「経済産業省・8月」
- 消費者物価指数(全国) 100.3(前年同月比+0.7%)「総務省統計局・8月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)